



消えた街角:富岡畦草・記録の目シリーズ

昭和35年「土橋の戦後」

千代田区中央区、港区の境界が合する位置にあった土橋は、昭和二十四年からの外堀埋め立てと、昭和三十五年からの汐留川の埋め立てでなくなってしまう。昭和三十七年に開通した高速道路下の交差点の名として、その歴史をこめていこう。

橋の手前に昭和二十五年、日本初の美容整形手術専門の十仁病院が開業、広く話題を呼んだ。橋を渡った銀座側には、戦後、何年に店開きしたか定かではないが、キャバレー「ショーポート」があり、動乱のかわか成金や進駐軍兵士のためり場になっていた。客が来るとラトロスタイルのボーイがドラムを打ち鳴らした。出入りする客を狙って群がる花売り娘は、昭和二十七年に禁止されたはずであるが、シューシャンボーイとともに、敗戦の傷みを引き受けていた。その跡地に、総二階ガラス張りのリクルートビルギンザ®が建ったのは、昭和五十四年のことである。

(昭和三十五年三月三十一日撮影)



昔、銀座は四方を水路で囲まれ、いくつもの橋がかかっていた。銀座通りの北端にあるのは「京橋」。東海道で日本橋から京都に向かうときに最初に渡る橋という意味があるという。南端は、京橋に比べ新しい橋という意味で名付けられた「新橋」。そして外堀通りの南端にあったのが、今回の撮影場所になった「土橋」である。名前の由来は木の土台の上に土をかぶせた橋だったことからきている。資料によると長さ三間二尺の小さな橋だったようだ。その後の橋は、その名前だけを引き継いだ。その他、銀座は上下水道が最初に完備した街でもある。それが要因となり、水を使用する産業(飲食業)が銀座に集まったといわれている。今も昔も銀座は「水」の街として繁栄している。

(平成13年6月27日撮影)